

【報道関係各位】

2019年2月14日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2019年 春の花粉飛散予測(第4報) 今年も花粉シーズンスタート！ 東海、中国、四国、東京で飛散開始

◆2019年 春の花粉飛散予測のポイント(2019年2月14日 発表)

- ・ 2月4日に東海、中国、四国の一部、11日に東京都でスギ花粉の飛散開始
- ・ 2月下旬から3月は全国的に気温が高い見込み
- ・ 「晴れて」「暖かく」「風が強い」日は花粉の大量飛散に十分注意

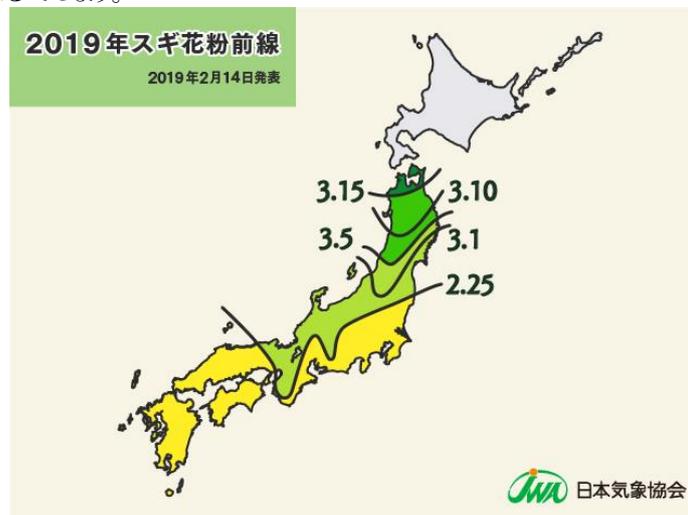
一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:石川 裕己)は、2019年2月14日(木)に全国・都道府県別の2019年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第4報)を発表します。また、詳細な情報を、「2019年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

2019年シーズンの飛散開始時期

2018年12月から2019年1月にかけて、西日本と東日本は気温が高めで経過しました。12月上旬には全国的に師走とは思えない暖かさの日があり、4日は、最高気温が25度以上の夏日になったところもありました。東京の練馬では25度0分を観測し、関東では14年ぶりに12月の夏日となりました。12月中旬以降も寒さの緩む日が度々あり、22日は四国や九州の所々で最高気温が20度を超えました。1月は何度か強い寒気が入り、厳しい寒さの日もありましたが、この寒さは長続きせず、平均気温は西日本を中心に平年より高くなりました。1月の降水量は、全般に平年より少なくなりました。

2月4日は、北陸地方で春一番の発表があり、最高気温が3月並みから4月並みのところが多くなりました。このため、2月4日は中国、四国や東海の一部で飛散開始*が確認され、11日には東京都でも飛散開始が確認され、花粉シーズンがスタートしています。そのほかの地点でも、飛散開始の定義にはあてはまっていますが、わずかな飛散が確認されているところがあります。

西日本と東日本は、来週は気温が平年より高くなる見込みです。まだ飛散開始となっていない西日本や東日本の地点でも2月下旬から3月上旬にかけて飛散開始となりそうです。厳しい寒さが続いている北日本も、2月下旬から3月上旬は気温が平年並みか高めで経過する見通しです。2月下旬には東北部で、3月上旬には東北部でもスギ花粉の飛散が始まるでしょう。



※飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日

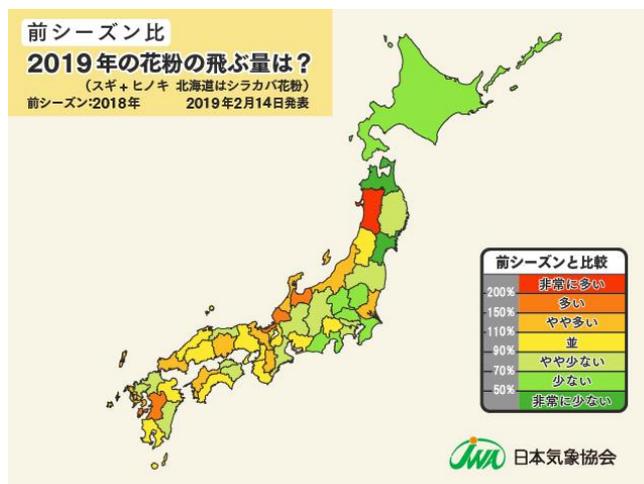
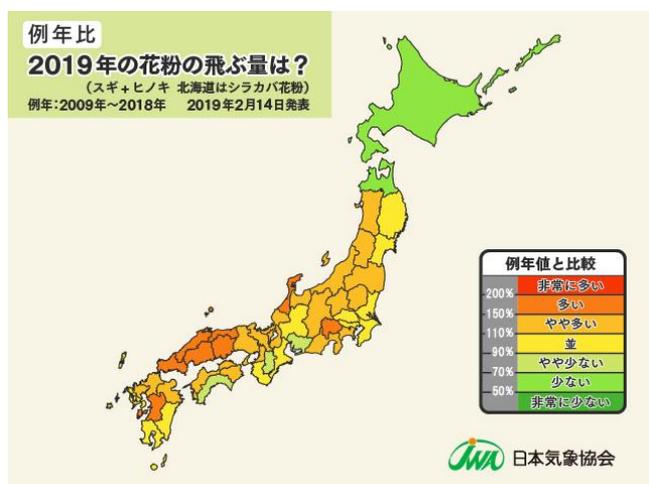
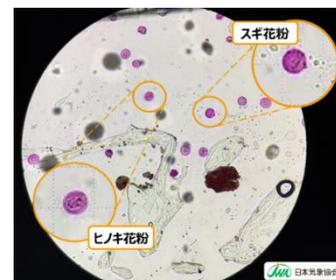
以上

参考資料

1. 2019年シーズン花粉飛散傾向

2019年春の花粉飛散量は、例年比でみると、東北から近畿でやや多い地方が多く、中国地方では多い見込みです。四国は例年並みで、九州は例年並みか多めとなりそうです。北海道は例年を下回るでしょう。一方で、前シーズンと比較すると、北海道から関東甲信、東海にかけては少ない傾向ですが、北陸では多いか、やや多い見込みです。秋田県では前シーズンの飛散量が少なかったため、前シーズンと比べて「非常に多い」予測です。

前シーズンの花粉の飛散量は、全国的に例年より多くなりました。前シーズンの特徴としては、ヒノキ花粉の飛散量が多い傾向があり、東京ではヒノキ花粉が過去10年で最も多く飛散するシーズンとなりました(例年比約4.9倍、2017年シーズン比約4倍の飛散量、日本気象協会の観測地点調べ)。今シーズンの予測に向けて花芽調査を行ったところ、ヒノキの花芽の数が前シーズンほど多くないことが分かりました。このため、今年のヒノキ花粉の飛散量は前シーズンより少ないと予測します。



各地域の2019年シーズンの花粉飛散量

地方	飛散量				2018年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない	60%	少ない	50%	平年並	かなり多い	少ない
東北	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	平年並
関東甲信	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	かなり多い
北陸	やや多い	140%	やや多い	140%	かなり高い	平年並	かなり多い
東海	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	かなり多い
近畿	やや多い	110%	前シーズン並	100%	かなり高い	かなり多い	かなり多い
中国	多い	160%	前シーズン並	90%	かなり高い	平年並	かなり多い
四国	例年並	100%	前シーズン並	90%	かなり高い	かなり多い	多い
九州	やや多い	130%	前シーズン並	100%	高い	多い	平年並

2. 各地のピーク予測

スギ花粉飛散のピークは、福岡では2月下旬から3月上旬、広島・大阪では3月上旬、高松・名古屋では3月上旬から中旬でしょう。東京のピークは3月上旬から4月上旬となり、多く飛ぶ期間が長くなりそうです。金沢と仙台では3月中旬から下旬にピークを迎えるでしょう。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ピークが始まります。福岡では3月下旬から4月上旬、広島・大阪では4月上旬、高松・名古屋・東京では4月上旬から中旬の見込みです。金沢と仙台では4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはないでしょう。

スギ・ヒノキ花粉の飛散量がピークになる時期は、花粉シーズン中の気温や予想される総飛散量と関係があると考えられます。このあと3月にかけての気温は北日本では、平年並みか高め、東日本と西日本では平年より高めで経過する予想です。スギ・ヒノキ花粉それぞれのピーク時期は、例年並みか少し早まる見込みです。

2019年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2019年2月14日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ									
	ヒノキ									
広島	スギ									
	ヒノキ									
高松	スギ									
	ヒノキ									
福岡	スギ									
	ヒノキ									

JWA 日本気象協会

2019年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2019年2月14日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ									
	ヒノキ									
名古屋	スギ									
	ヒノキ									
金沢	スギ									
	ヒノキ									ピークなし

JWA 日本気象協会

3. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏(6月～8月)の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

【花粉の種類について】

北海道 : シラカバ
その他 : スギ・ヒノキ

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い : 前シーズン(例年)の200%以上
 多い : 前シーズン(例年)の150%以上200%未満
 やや多い : 前シーズン(例年)の110%以上150%未満
 前シーズン(例年)並 : 前シーズン(例年)の90%以上110%未満
 やや少ない : 前シーズン(例年)の70%以上90%未満
 少ない : 前シーズン(例年)の50%以上70%未満
 非常に少ない : 前シーズン(例年)の50%未満

前シーズン : 2018年シーズン飛散量
 例年 : 過去10年(2009～2018年)の平均値

【2018年夏の気象に関する言葉の説明】
 平年 : 1981～2010年の平均値



スギ群落の前年との比較(高知県長岡郡本山町のスギの様子)

左: 2018年1月7日 右: 2019年1月5日 撮影